

## 地域包括支援センターの職員が認識している 地域ケア会議の開催要件について ーテキストマイニングによる自由記述の分析を通してー

奥村あすか(長崎純心大学医療・福祉連携センター)  
 潮谷有二(長崎純心大学医療・福祉連携センター)  
 宮野澄男(長崎純心大学医療・福祉連携センター)  
 吉田麻衣(長崎純心大学医療・福祉連携センター)  
 HP: <http://www.n-junshin.ac.jp/cmw/>  
 Facebook: <https://www.facebook.com/cmw.njunshin>

### I. 研究の背景と目的

- 2025年を見据え、地域包括ケアシステムを構築していくために、多職種協働による連携体制で、高齢者個人の支援の充実と、それを支える社会基盤の体制づくりを同時に進めていく地域ケア会議の充実が、一層求められていることは周知の通りである。
- このような状況の中、平成26年2月に長崎純心大学医療・福祉連携センターでは、全国の地域包括支援センター(以下、包括という。)を対象に「地域包括支援センターにおける業務実態等に関する調査」を実施し、当該調査の結果については、潮谷ら(2014)、吉田ら(2014)、奥村ら(2014)、宮野ら(2014)が『純心現代福祉研究 第18号』に報告している。
- 特に、奥村ら(2014)は、当該調査から得られた「地域ケア会議の開催要件」に関する自由記述の内容(n=695)を対象に、樋口(2004)が開発したKH Coder(Ver.2.beta.31)を用いて当該データを客観的に分析するための準備作業を行った結果、「事例検討」「地域ケア会議」「顔の見える」「地域課題」「政策形成」等の地域ケア会議の開催要件に係るキーワードを推察するとともに、今後の分析として同義語処理及び強制抽出語の選定が必要になるということを指摘している。
- そして、奥村ら(2015)は、同義語処理の手続きを踏まえて分析を行い、「地域ケア会議」や「介護支援専門員」等の地域ケア会議の開催要件に係るキーワードを推察するとともに、今後の分析として、強制抽出語の選定や、解釈を容易にするために、品詞の選定等の手続きが必要になるということを再度指摘している。
- **そこで、本研究では、奥村ら(2015, 2014)の研究成果を引き継ぎ発展させるということを見据え、視野に入れて、強制抽出語や品詞の選定を行い、包括の職員が認識している地域ケア会議の開催要件について、具体的に明らかにすることを目的とした。**

### II. 方法

(1) 調査方法	質問紙を用いた自計式の郵送調査法
(2) 調査期間	2014年2月から2014年2月末日。
(3) 調査対象	全国の包括4,834箇所を対象とする悉皆調査であり、回答者は包括の社会福祉士またはそれに準ずる者とした。また、本調査の周知と協力及び円滑な実施を図るため、調査対象とした包括及び当該包括を所管する主管課1,913箇所に対しても調査協力依頼文の発送をし、本調査の趣旨への賛同を得て回答を求めた。
(4) 回収率	25.2%(1,217件)
(5) 倫理的配慮	調査協力依頼文と調査票の表紙に回答は厳重に秘密を守って統計処理を行いプライバシーが外部に漏洩することはない旨を記した。加えて、データクリーニングの際に、調査対象者や調査対象となった包括を特定することができないように必要に応じて、自由記述の文章にマスキングを行った。
(6) 分析方法	本研究では、「あなた(回答されている方)は、地域包括支援センター圏域において地域ケア会議を開催していくにあたり、何が重要だと思いますか、ご自由に記入下さい。」という問いへの回答であるテキストデータ(n=695)を分析対象とした。分析方法はKH Coder(Ver.2.00)を用いたテキストマイニングによって、計量的にテキストデータの分析を行った。具体的な方法は潮谷(2012)、樋口(2014)を参考しつつ、次の研究プロトコルの通りに行った。

#### 研究のプロトコル

1. テキストデータに関する分析(奥村ら 2014, 奥村ら 2015)
  - (1). 基本統計量の算出
  - (2). 頻出上位150語の観察
  - (3). 共起ネットワーク分析
  - (4). kwicコンコーダンス分析とコロケーション統計の算出
  - (5). テキストデータに関する同義語処理
2. 同義語処理後のテキストデータに関する分析(奥村ら 2015)
  - (1). 基本統計量の算出
  - (2). 頻出上位150語の観察
  - (3). 共起ネットワーク分析
  - (4). kwicコンコーダンス分析とコロケーション統計の算出
  - (5). 分析に用いる品詞の選定と強制抽出語の選定
3. 強制抽出語を用いたテキストデータに関する分析
  - (1). 基本統計量の算出
  - (2). 頻出上位150語の観察
  - (3). 共起ネットワーク分析
  - (4). 共起ネットワーク分析の結果を踏まえ、共起関係が強い抽出語を含む文書の検索
  - (5). 検索された文書の整理、分類
  - (6). 地域ケア会議の開催要件に関する自由記述における意味の解釈

### Ⅲ. 結果 1. テキストデータに関する分析結果

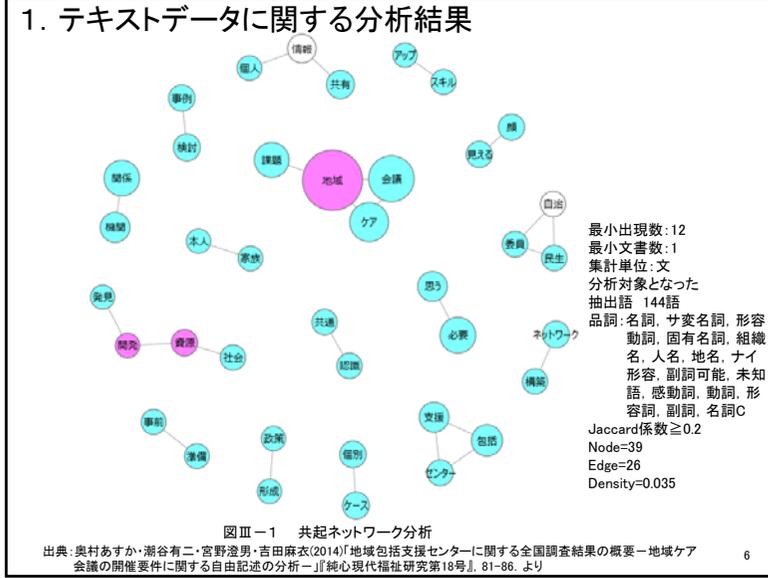
**表Ⅲ-1 抽出語の基本統計量**

総抽出語数	24,755
異なり語数(使用)	1,778(1,456)
抽出語の出現回数の平均	7.74
抽出語の出現回数の標準偏差	33.18
文	1,955
段落	1,206

**表Ⅲ-2 頻出上位150語の抽出語リスト**

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
地域	702	自治	29	方向	19	政策	14
会議	425	資源	52	日頃	29	メンバー	18
ケア	294	顔	49	構成	26	多い	14
必要	235	見える	49	業務	25	現在	18
関係	230	人	49	システム	24	能力	18
課題	215	明確	48	個人	24	方々	18
理解	174	センター	47	事前	24	説明	17
参加	149	考える	47	知る	24	力	17
包括	148	解決	46	運営	23	開発	13
開催	131	医療	44	確保	23	自分	16
連携	129	介護	43	視点	23	主催	16
機関	120	時間	43	準備	23	生活	16
支援	119	職種	43	調整	23	難しい	16
思う	118	出席	41	医師	22	本人	16
情報	94	委員	38	実施	22	活動	15
目的	93	体制	38	担当	22	関わる	15
住民	88	問題	38	抽出	22	強化	15
共有	84	市	37	意見	21	形成	15
行政	74	内容	36	家族	20	司会	15
協力	70	福祉	36	感じる	20	市町村	15
検討	65	民生	35	向上	20	集まる	15
ケース	63	共通	34	困難	20	重要	15
ネットワーク	60	社会	34	作る	20	場	15
行う	60	認識	34	団体	20	場合	15
周知	58	構築	33	それぞれ	19	対応	15
専門	58	役割	32	サービス	19	力量	15
個別	56	高齢	31	進行	19	機能	14
把握	55	持つ	31	積極	19	交換	14
事例	54	事業	30	相談	19	姿勢	14
職員	54	スキル	29	大切	19	変な	14

出典: 奥村あすか・潮谷有二・宮野澄男・吉田麻衣(2014)「地域包括支援センターに関する全国調査結果の概要—地域ケア会議の開催要件に関する自由記述の分析—」『純心現代福祉研究第18号』, 81-86. より



### 2. 同義語処理後のテキストデータに関する分析結果

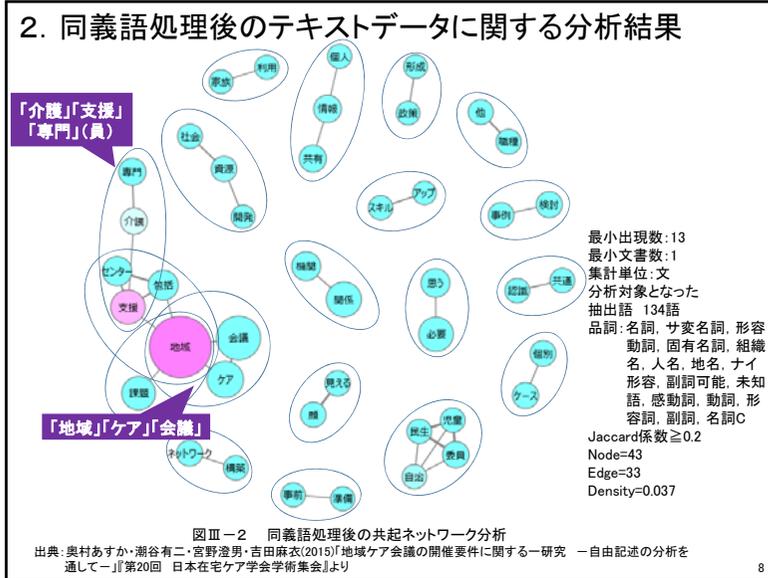
**表Ⅲ-3 抽出語の基本統計量**

総抽出語数	25,306
異なり語数(使用)	1,755(1,439)
抽出語の出現回数の平均	8.12
抽出語の出現回数の標準偏差	35.16
文	1,955
段落	1,206

**表Ⅲ-4 頻出上位150語の抽出語リスト**

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
地域	783	把握	55	持つ	31	積極	14
会議	427	事例	54	スキル	29	相談	19
ケア	273	職員	54	自治	29	大切	19
関係	243	意識	52	日頃	29	方向	19
必要	235	資源	52	医師	26	メンバー	18
支援	231	顔	49	構成	26	研修	18
課題	215	見える	49	システム	24	現在	18
理解	174	人	49	個人	24	生活	18
参加	149	明確	48	事前	24	能力	18
包括	141	考える	47	担当	24	方々	18
開催	131	解決	46	知る	24	説明	17
連携	129	医療	44	運営	23	開発	13
センター	126	時間	43	確保	23	自分	16
機関	120	職種	43	業務	23	主催	16
思う	118	出席	41	視点	23	生活	16
情報	94	他	41	準備	23	難しい	16
目的	93	福祉	40	調整	23	難しい	16
住民	88	社会	38	利用	23	活動	15
専門	85	体制	38	実施	22	関わる	15
共有	84	問題	38	抽出	22	強化	15
介護	75	市	37	意見	21	形成	15
行政	74	内容	36	家族	20	司会	15
委員	72	児童	35	感じる	20	市町村	15
協力	70	民生	35	向上	20	集まる	15
検討	65	共通	34	困難	20	重要	15
ケース	63	認識	34	作る	20	場	15
ネットワーク	60	構築	33	団体	20	場合	15
行う	60	事業	33	それぞれ	19	対応	15
周知	58	役割	32	サービス	19	力量	15
個別	56	高齢	31	進行	19	機能	14

出典: 奥村あすか・潮谷有二・宮野澄男・吉田麻衣(2015)「地域ケア会議の開催要件に関する一研究—自由記述の分析を通して—」『第20回 日本在宅ケア学会学術集』より



語の取捨選択

強制抽出した語=タグ	
地域包括支援センター	多(他)職種
民生委員・児童委員	関係者
地域ケア会議	参加者
ケア会議	高齢者
地域包括ケア	明確化
介護支援専門員	職員
見える	時間
利用者	公助
自治会	
使用した品詞	
名詞, サ変名詞, 形容動詞, ナイ形容, タグ, 名詞C	

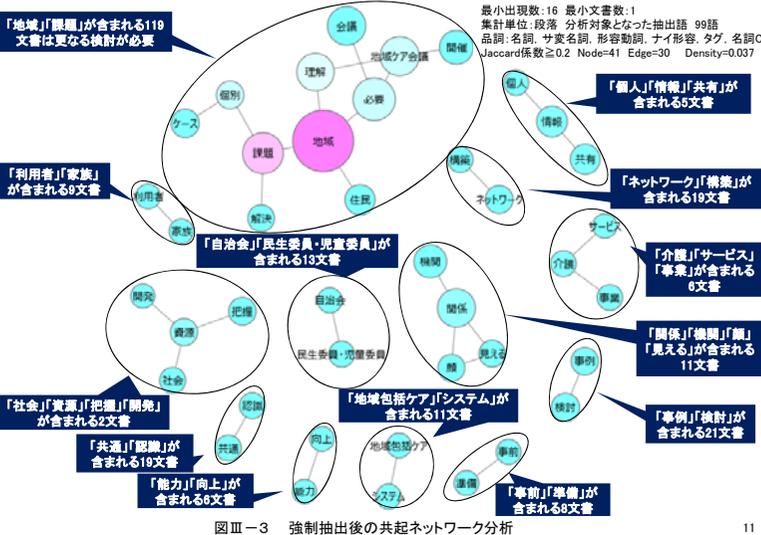
3. 強制抽出語を用いたテキストデータに関する分析結果

総抽出語数	23,905
異なり語数(使用)	1,781(950)
抽出語の出現回数の平均	8.24
抽出語の出現回数の標準偏差	25.4
文	1,955
段落	1,206

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
自治会	52	自治会	26	方々	18	委託	12
地域	458	資源	52	力	19	関わり	12
必要	233	課題	49	システム	24	カ	12
課題	219	人	49	個人	24	説明	17
地域ケア会議	183	ケア会議	46	事前	24	内	17
会議	183	解決	46	明確化	24	明確化	17
関係	182	専門	45	運営	23	センター	16
理解	174	医療	44	確保	23	期発	16
開催	131	見える	44	業務	23	自分	16
連携	129	時間	44	視点	23	主催	16
機関	120	出席	41	準備	23	活動	15
地域包括支援センター	112	介護支援専門員	40	調整	23	強化	15
情報	94	福祉	40	利用者	23	形成	15
目的	93	社会	38	実施	22	完全	15
参加	89	体制	38	抽出	22	市町村	15
住民	88	問題	38	意見	21	重要	15
共有	84	市	37	家族	20	場	15
支援	79	内容	36	向上	20	対応	15
行政	74	介護	35	困難	20	力盡	15
協力	70	民生委員・児童委員	35	団体	20	機能	14
検討	65	共通	34	地域包括ケア	20	交換	14
ケース	63	認識	34	サービス	19	姿勢	14
関係者	61	構築	33	進行	19	政策	14
ネットワーク	60	事業	33	積極	19	整理	14
参加者	60	役割	32	相談	19	アップ	13
周知	58	多(他)職種	31	大切	19	意義	13
個別	56	明確	31	方向	19	具体	13
把握	55	スキル	29	メンバー	18	警察	13
事例	54	高齢者	27	研修	18	現状	13
職員	54	医師	26	生活	18	連携	13
意識	52	構成	26	能力	18	ケア	13

3. 強制抽出語を用いたテキストデータに関する分析結果



図Ⅲ-3 強制抽出後の共起ネットワーク分析

「事前」「準備」が含まれる8文書

「事前」「準備」が含まれる8文書

**事前準備**をしっかりと行う。ファシリテーター能力

利用者や家族の了解、関係者の協力依頼など開催に当たる**事前準備**に時間がかかる。同じ目的でよりよい町にしていこうという共通認識が必要。

地域ケア会議は課題が多岐にわたる場合も多いため、**事前の準備**と計画が十分に練られていないと充実したものとならない。

普段から顔の見える関係作り。地域包括ケアシステム構築に向けての各専門機関の意識。地域包括支援センターの地域ケア会議開催に向けて行政がバックアップすること。**事前準備**、当日の決議(課題、目標、具体策)の明確化。個別ケア会議を重ねることから地域課題を抽出すること。地域課題解決のための施策を市町に提言していくこと。

日頃から地域の関係機関との連携を密にしておく。地域ケア会議で、誰もが発言しやすい雰囲気作り。**事前準備**を十分にを行う。

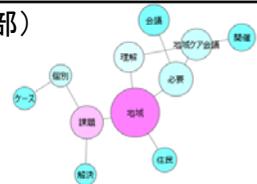
関係者等に地域ケア会議の必要性について、まず理解してもらうことが必要。色々な関係者に会議のため時間を合わせてもらったりするため、お互い何か成果が得られるものでなければいけない。そのため**事前準備**や会議後のフォロー等時間をかけて綿密に行わなければならないと思われる。

地域住民の理解と協力。**事前**に目的を定め、十分**準備**すること。専門用語は控え、分かりやすい資料作成、説明を心掛ける。ケア会議の規模、参加者、内容などの階層化を図ること。司会者としてファシリテーション技術。(委託地域包括支援センターのため)市との**準備**。

地域情報、社会資源など**事前**に確認(準備)。必要構成メンバー(ケース内容のとり上げによい)の参集の柔軟な開催。具体的支援に結びつく意見の集約や進行のあり方等。

整理、分類した文書の意味の解釈が、今後、必要であるということが明らかになった。

「地域」「課題」が含まれる119文書(一部)



**地域、課題が含まれる119文書**

地域の問題について開催した。住民のネットワークと地域課題の抽出方法がまだ理解が乏しい。(私が)参加者の会議に対する目的意識の統一(会議に臨む姿勢、会議の役割等)。地域課題を吸い上げる方策等を会議開催までに取り組んでおく。司会者、主催者で、予めゴールを設定する。

テーマ設定など、内容を決めることに苦慮している。地域課題の抽出が必要と思っているが、それ自体もできていない。個別ケースを居宅介護支援専門員にあげてもらっても必要もあると感じている。そのためには、介護支援専門員の説明と理解を得ていかなければならない。

個人情報取り扱いに関するルール。課題から施策につなぐことができる行政担当者の力量。地域住民の協力。

地域や介護サービス関係機関等から自由に書かれている課題を引き出せる環境整備や関係作り。開催するだけでなく、課題解決に向けた話し合いができる会議の進捗力。地域の課題解決への協力、理解。

各職種の地域課題の把握。会議開催後の共通認識。

地域包括支援センターと地域とのつながり。民生委員・児童委員さんはもちろん、地域住民にもっと地域包括支援センターの存在を知ってもらおう。また、地域包括支援センターも地域性などを知る必要がある。個別課題にしろ、地域課題にしろ、つながりがなければ、あまり意味のないものになってしまう。

地域ケア会議を行うことで「地域課題解決につながった」、「解決に向かって話が進みだした」といった成功事例の発表。地域住民、福祉・医療専門職、その他関係機関が情報を共有しやすい内容であること。(参加者全員が困っている地域課題を話題にする)ただ会議を行うだけでなく各専門職が集まっているのでそれぞれが現在関心のあることやPRの時間を作るといった交流会や情報交換会的な要素も含める。

「地域」「課題」が含まれる119文書(一部)

**地域、課題が含まれる119文書**

地域の課題抽出。事例の共有。情報交換。

地域包括ケアシステムを理解し、地域の実情や特性、課題等を共有した上で目標とする地域像を共有することが大事だと思います。動き始めたばかりなので、地域ケア会議の5つの機能が発揮できるような流れの体制整備をしていく必要があると思います。

地域課題把握等のケア会議は現在の形でもよいと考えている。しかし個別ケースに関する地域ケア会議の場合、医師等の参加に結びつけられずにいる。医師にも参加してもらえるような体制作りが必要と考える。

適切な地域課題を見つけ、住民、地域支援者、関係機関が一体となって取り組んでいくことが必要である。その支援を地域包括支援センターが担っていくべきである。

地域ケア会議の概念として、どのような形態を示しているのかわかりませんが、地域課題の抽出、発見を目的とした地域ケア会議では、参加者の多様性と共通言語の統一という観点が大前提だと思います。どのような人に参加を求めるのか、また情報共有や課題抽出などに至る準備としての土台作りが必要だと思います。個別支援のための地域ケア会議では、様々な意見がある中で、やはり利用者の意志を尊重することが大切だと思います。(しかし現状としては、なかなか利用者の意志だけではどうにもならないことがあり、少しでも要望に沿えるよう、社会資源を整備する必要があると思います。) 政策提言に掛かる地域ケア会議では、地域の状況を把握しつつ、地域のニーズをどのように方向性を持って抽出していくか、行政との連携が重要になると思います。

地域の課題をしっかりと把握し地域で独自の体制、資源を確立。地域の課題、個別ケースの事例検討一見守り体制の構築

「地域」「課題」が含まれる119文書は、文書数が多く、また、共起関係が複雑な構造であり、解釈が難しいため、整理、分類、解釈を行っていくためには、今後、検討が必要であるということが明らかになった。

IV. 考察

地域ケア会議の開催要件の記述内容について、強制抽出語や品詞の選定を行い、テキストマイニングによる分析を行った結果、共起ネットワーク分析の抽出語同士の共起関係に着目すると、下記に示すようなキーワードが推察された。

「利用者」「家族」	「事前」「準備」
「社会」「資源」「開発」「把握」	「事例」「検討」
「共通」「認識」	「個別」「ケース」「課題」
「能力」「向上」	「課題」「解決」
「自治会」「民生委員・児童委員」	「地域」「住民」
「関係」「機関」「顔」「見える」	「地域」「理解」
「ネットワーク」「構築」	「地域」「課題」
「個人」「情報」「共有」	「地域ケア会議」「開催」
「介護」「サービス」「事業」	「地域ケア会議」「必要」
「地域包括ケア」「システム」	「地域ケア会議」「理解」

今後の課題としては、包括の職員が認識している地域ケア会議の開催要件の記述内容について、共起ネットワーク分析の結果を踏まえ、共起関係に着目し、整理、分類した文書の意味の解釈が必要となるが、その際に、「地域」「課題」が含まれる119文書に関しては、文書数が多く、また、共起関係が複雑な構造であるため、どのように文書の整理、分類、解釈を行うかについては、今後検討が必要であるということを指摘しておきたい。

文献

樋口耕一(2004)「テキスト型データの計量的分析-2つのアプローチの峻別と統合」『理論と方法』, 19(1), 101-115.

樋口耕一(2014)「社会調査のための計量テキスト分析-内容分析の継承と発展を目指して-」ナカニシヤ出版。

宮野澄男・潮谷有二・奥村あすか ほか(2014)「地域包括支援センターに関する全国調査結果の概要-地域包括ケアの推進要件に関する自由記述の分析」『純心現代福祉研究 第18号』, 87-92.

奥村あすか・潮谷有二・宮野澄男 ほか(2014)「地域包括支援センターに関する全国調査結果の概要-地域ケア会議の開催要件に関する自由記述の分析」『純心現代福祉研究 第18号』, 81-86.

奥村あすか・潮谷有二・宮野澄男・吉田麻衣 ほか(2015)「地域ケア会議の開催要件に関する一研究-自由記述の分析を通して-」『第20回 日本在宅ケア学会学術集会』, 77.

潮谷有二(2012)「社会福祉士制度の見直しに関する実証研究-社会保障審議会福祉部会における議事録の基礎的分析を通して-」日本社会福祉学会編『対論社会福祉学3 社会福祉運営』中央法規, 281-324.

潮谷有二・宮野澄男・奥村あすか ほか(2014)「地域包括支援センターに関する全国調査結果の概要」『純心現代福祉研究 第18号』, 33-72.

吉田麻衣・潮谷有二・宮野澄男 ほか(2014)「地域包括支援センターに関する全国調査結果の概要-地域ケア会議の主たる構成員に関する自由記述の分析」『純心現代福祉研究 第18号』, 73-80.

※本研究は、文部科学省の「平成25年度 未来医療研究人材養成拠点形成事業【テーマB】リサーチマインドを持った総合診療医の養成」に係る研究成果の一部である。